

謹賀新年

年頭のごあいさつ



大石田町長

村岡 藤弥

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては輝かし
い新年をお迎えのことと心から
お慶び申し上げます。



昨年5月に元号が「平成」から「令和」と
変わりました。令和には、「希望に満ち溢れ
た、新しい時代を切り開き、若い世代が活躍
できる時代であってほしい」との願いが込められ
ていることです。令和の時代が、平和で、
国民一人ひとりが希望に満ち溢れ、活躍す
ることができる時代になることを願っています。

相次ぐ災害に備え 減災・防災に取り組みます

昨年を振り返ってみますと、本当に
自然災害の多かった年でありました。
1月に熊本県熊本地方を震源とした震
度6弱の地震、2月に北海道胆振東部
地方を震源とした震度6弱の地震が発
生し、元号が令和に変わって6月には、
山形県沖を震源とする地震により、鶴
岡市で震度6弱を観測しました。観測
史上、初めて山形県内で震度6以上の
揺れが発生した地震となりました。

最大想定震度6強の山形盆地北部断層
が大石田町を縦断することから、10月には上
ノ原地区自主防災会など地区住民の協力
により、震度6強の地震を想定した町防災
訓練が行われています。
9月、10月には大型の台風が相次いで日本
列島を通過し、各地で甚大な被害が発生し
ました。このうち10月12日から13日にかけて列
島を縦断した台風19号は大石田町におい
ても、田畑の浸水被害、道路の冠水や路肩の崩
落などの被害をもたらしました。また、台風通
過後も最上川の水位上昇が続く、避難判断
水位に達する可能性があると予測か
ら、町内2か所に避
難所を開設し、警戒
レベル3「避難準備」
を呼びかけました。
現在「尾花沢市
消防署大石田分
署」の改築工事が、



台風19号通過後の大橋

今年3月の完成
を目指して急ピッ
チで進んでおりま
す。大石田分署は
町民の生命と安
全を守るための地
域防災の拠点とし
て、訓練敷地や備
蓄倉庫を兼ね備
えた施設として整
備し、災害等に対応してまいります。



消防分署完成予想図

本年はこれまでのところ、例年になく雪の少な
い冬となっておりますが、快適な冬の暮らしのた
め、引き続き、行政と住民の総力を結集して
雪対策に取り組んでまいります。

町のポテンシャル生かした 交流人口の拡大に向けて

2017年に大石田町を舞台に撮影が
行われた映画「コンプリシティ／優しい共犯」
が、1月から全国の劇場で公開されています。
映画では、日本を代表する俳優・藤竜也さ
んが大石田町のそば屋の店主に扮し、近浦
啓監督が「シネマティック」と表現する町の

風景や花火などが
美しい映像で表現
され、物語に溶け
込んでいます。映
画を通じて大石田
町の魅力が、多く
の方に伝わること
を期待しておりま
す。



映画公開記念トークイベント

昨年には日本遺産「山寺が支えた紅
花文化」に大石田町が追加認定されま
した。交流人口と関係人口のさらなる
拡大につながるものと期待しておりま
す。このように町が秘めたポテンシヤ
ルは非常に大きいと感じています。大
石田そば街道や、
舟運文化がもた
らした貴重な文
化財などの資源
を生かし、町の
魅力を前面に押
し出して、発信
していきたいと
考えております。



地域おこし協力隊の大野達也さん、大野あかねさん

昨年4月に新たに、大野達也さん、
あかねさん夫妻が地域おこし協力隊と
して着任しました。お二人には、元お
笑い芸人と美容師という経歴を生かし、
特色ある取り組みで町の活性化に向け
て活動していただいております。

「町民目線の町づくり」 を政治信条にして

私は、昨年11月に町長に就任し、今
後4年間の町政を預かることになりま
した。少子高齢化対策や雪対策など、
様々な課題に対し、「町民目線のまち
づくり」を政治信条として、「心豊か
に幸せを感じるまちづくり」を町民の
皆さまと一緒に進めていく所存
でありますので、ご指導とご鞭撻を賜
りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆さまにとりまして
すばらしい年となるようご祈念申し上
げ、挨拶いたします。

